

建設業経理士 1級

過去問ゼミ



原価計算

弥生カレッジCMCでは、月2回（予定）YouTubeライブにて独学者応援（無料質問会）を開催しています。

下記質問フォームに、学習内容についての質問や詳しく教えてほしい論点等、事前にコメントしてください。当日お答えいたします！

<質問フォーム> ※有料講座受講期間限定

<https://kaikeisoft.net/form01/liveform/>



弥生カレッジCMC

無断転用・転載を禁じます

第19回 建設業経理士1級 原価計算

<3問>

減価 管 理	1,260,000	1,260,000	
11/11	1,785,000	1,253,000	
	3,045,000	2,313,000	
① 2,900	1.050円	225円	④ 10,280

①	110,720	②	381,460
①	87,040		
③	575,220		
⑤	72,220		
⑤	210,000	⑥	107,500
	189,500		189,500
			503,000

<4問>

①-②

1,620,000
↑ 0.6
(2,700,000)

③ tax 820,000

④ 2,000,000

⑤	(820,000)	(615,000)	(412,000)	(205,000)
⑥	(80,000)	(80,000)	(80,000)	(80,000)
	↓ x0.6	↓	↓	↓
	540,000	417,000	294,000	171,000
★	(1,770,000)	(1,647,000)	(1,524,000)	(1,461,000)
	0.893	0.797	0.712	0.636

1,620,000 × 3.038 = 4,921,560

52.167
⑥ ⑦ ⑧ ⑨

4,869,393

<5問>

701	→	7A
702	→	
703	→	

216,920

216,000

182 180円

③ 218,400

⑥ 216,920

1,480 (有)

⑦ 218,400

⑧ 216,920

⑨ 72,000

⑩ 72,000

⑪ 72,000

⑫ 72,000

⑬ 72,000

⑭ 72,000

⑮ 72,000

⑯ 72,000

⑰ 72,000

⑱ 72,000

⑲ 72,000

⑳ 72,000

㉑ 72,000

㉒ 72,000

㉓ 72,000

㉔ 72,000

㉕ 72,000

㉖ 72,000

㉗ 72,000

㉘ 72,000

㉙ 72,000

㉚ 72,000

㉛ 72,000

㉜ 72,000

㉝ 72,000

㉞ 72,000

㉟ 72,000

㊱ 72,000

㊲ 72,000

㊳ 72,000

㊴ 72,000

㊵ 72,000

㊶ 72,000

㊷ 72,000

㊸ 72,000

㊹ 72,000

㊺ 72,000

材料副

1.345	920
	425
	⑦

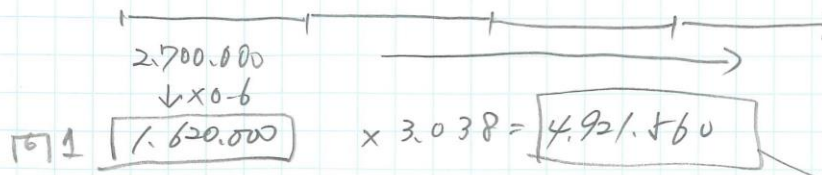
5,920 (有) + 1,250 = 7,170

2,400 (有) + 4,520 = 6,920

5問目付
内部文 =
計算結果を
5.12中

木4向

(19回) <1-2>



<買入>

	①	②	③	④	⑤
① 8,200,000	8,200,000	8,200,000	8,200,000	8,200,000	0
② 8,200,000 ± 0	6,150,000	4,000,000	2,000,000	0	0
	8,200,000 80,000	6,150,000 80,000	4,100,000 80,000	2,050,000 80,000	0
	↓ 0.6				
	540,000	417,000	294,000	171,000	
向2	1,770,000	1,647,000	1,524,000	1,401,000	4,869,393

⑤ 2,167
買入有利

(18回)

(向2)

売 16,000
 変加 7,500
 変販 700
 ① 6,800
 $1,800 \times 700 = 1,260,000$

(向3)

売 x
 変加 7,500
 変販 600
 ① x - 4,100

<利益増加>
 利益損失

$$700,000 + 1,260,000 = 1,960,000$$

$$(x - 4,100) \times 800 - 1,800,000 = 0$$

$$800x - 3,080,000 = 0$$

$$x = 6,250$$

※4回

(17回)

①	※1	※2	→	≡	力
			124,200	144,000	108,000
	→	69,000			
	≡	72,000			
	力	60,750			
		<u>201,750</u>			

②	※1	※2	→	≡	力
			124,200	144,000	108,000
	力	48,600	10,800	10,800	
	≡	69,660	15,480	15,480	
	→	82,600	150,480		
		<u>201,860</u>			

③	※1	※2	→	≡	力
	620,000		124,200	144,000	108,000
	→	0.5x	0.1y	0.1x	
	≡	0.45y	0.1z	0.1z	
	力	0.45z	x	y	z

$z = 108,000$

$y = 0.1x + 149,000 + 10,800$

$x = 0.1y + 124,200 + 10,800$

$\rightarrow y = 10x - 1,350,000$

$10x = y + 1,242,000 + 108,000$

$0 = -9.9x + 1,504,800$

$y = 10x - 1,350,000$

$x = 152,000$

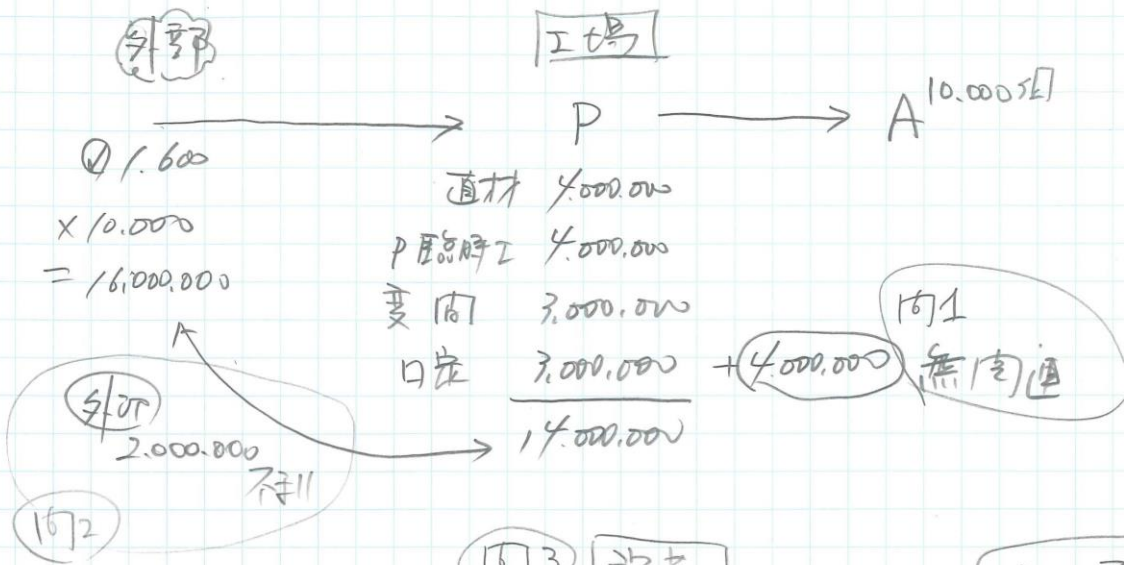
$y = 170,000$

④ $0.5 \times 152,000 + 0.45 \times 170,000 + 0.45 \times 108,000 = 201,100$

*416

(16回)

考之方 延子と外2外1



1673

設備

+1,500,000

1672a 不採 2,000,000

1,500,000 採 11" - 7.5L

∴ 500,000 不採

(15回)

(2)

*1 (A) @1.290

*2 (F)

(2)

@1.855

67,000 (52,800)	670 328,000 (536,000)	87/100 (31.0%)	80 (32)	670	822,400 (383,750)
725,000 (535,200)	170 (65) 67,700 (52,000)	864/100 (792.16%)	670 (688)	100 (70)	129,000 (39,900)
	6 (1) 115,700				

中4161

(14回) 等級別総合原価計算

A				B			
54,000	200	3,000	810,000	89,600	400	2,800	607,600
(5,600)	(160)		(576,000)	(24,000)	(300)		(24,800)
89,000	3,300			604,800	2,800		
(628,000)	(3,140)	500	135,000	(324,000)	(2,700)	400	86,800
		(300)	(57,600)			(200)	(23,200)
		3,300		2,800 × 0.8 = 2,240			
			1,495,800				
		3,140		2,700 × 0.6 = 1,620			
			952,000				

① 1,495,800
 ② 952,000

手付材料は☆
 残りは普通計算

(13回) 組別総合原価計算

A				B			
38,000	700	2,000	262,500	53,000	400	1,500	202,500
(15,540)			(487,000)	(51,920)			(441,000)
277,000	2,100	400	52,500	176,500	1,300	200	27,000
(304,900)		(240)	(58,440)	(235,240)		(140)	(41,160)
225,000				195,000			

71 ← 420,000 → 61

12回組別材料費の算定方法と先入先出法が

違うだけ。確認下さい

解法は同じです

※11回 (事務C) 資料の整理 (難)

★ 向1.3.4は 確実に
向2はズレでもOK 向5はでき
ない

① 1.450 ② 1.8/2.5

向4 資料マ	7,043,610	資料マ	向3
19,556,388			
	実		予
	18,937,728		17分
6,424,950			

向4

① 1.450 × 4,271
② 1.8/2.5 × 128
資料計算

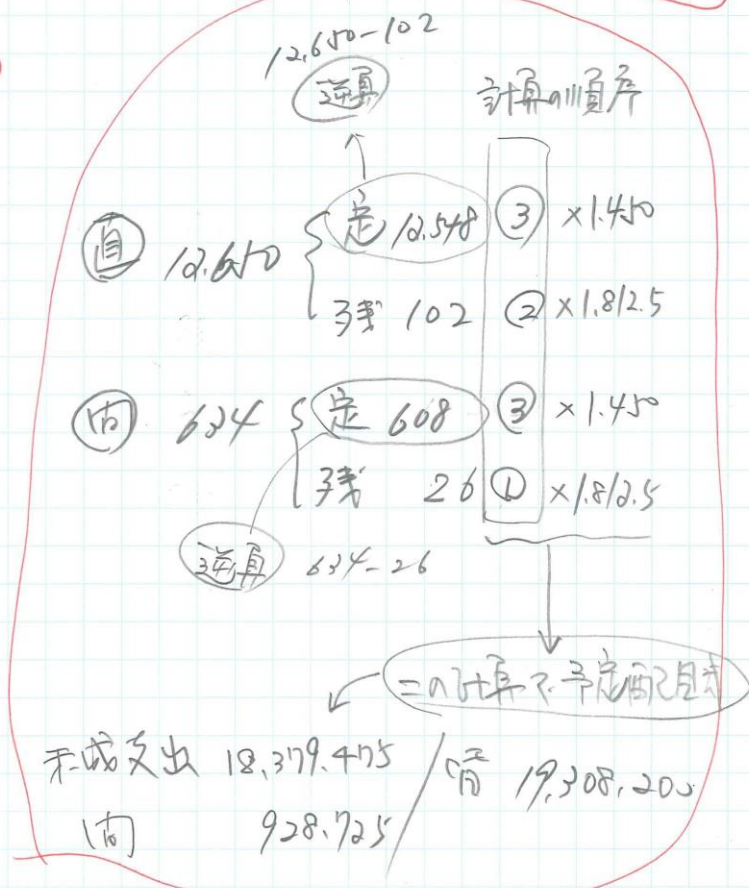
※ 向2で向2も差額の計算は可能

資料3より予定配賦額を計算

$$(8,885 + 4,271) \times 1.450$$

$$128 \times 1.8/2.5$$

③ 19,308,200



向2 難しい 逆算は2が良い

④ 370,472 (有利)

※10回 (材料簡算)

		四捨	AM	FR
97,600	320	1,500	483,009	481,631
(66,400)	(128)		(801,000)	(800,722)
514,211	1,580		128,802	120,180
(841,400)	(1,572)	400 (200)	(106,800)	(107,048)

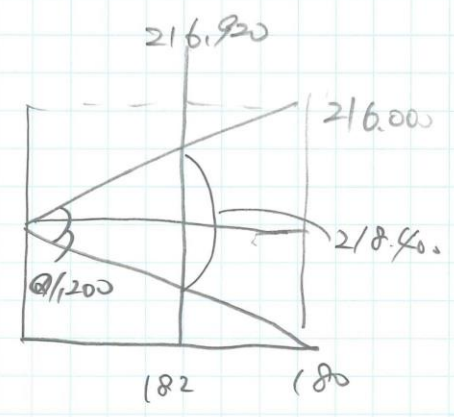
この書き方解答案用紙の2か3決めた

	701	702	703
甲	(209,700)	(99,880)	
乙	101,850	294,525	162,750
丙	98,000	134,400	121,450
丁	(115,000)	(71,150)	
戊	61,120	122,240	198,640
己	(151,100)	(86,800)	
庚	18,990	77,850	113,940
辛	52,920	82,290	98,570
壬	(34,740)	(9,630)	
癸	7,890	22,805	25,950
子	(52,880)	(32,920)	
丑	9,817	35,503	37,705
寅	66,816	111,360	111,360
卯	32,400	72,000	114,000

③ 26.625 ④ 27.970

材料差引
 920
 1,745 } 425 ... (163)

⑤ 556,800 / 25 = 22,272



差異 1,480 (有)
 ⑥ 920
 ⑦ 2,400

702 先計算して 2か3 完成の方が YPL になる

⑧ 乙材料

- 3/1 46 x @ 2,500 = 115,000
 - 7 54 x @ 2,400 = 109,000
 Δ 20,600 (100)
 - 15 70 x @ 2,540 = 177,800 (70)
 - 23 10 x @ 2,240 = 22,400 (60)
 - 24 70 x @ 2,450 = 171,500 (100)
 - 28 50 x @ 2,450 = 122,500 (702)
 - 18 40 x @ 2,450 = 98,000 (701)
- Δ 22,400 ⇒ 134,400

⑨
 920 | 1,250
 336 } |

⑩
 4,520 | 2,400
 } | 2,120

弥生カネミ CMC

和5向 (18回) 原(西)集計表と書cパターン

☆ 本試験では材料は捨2向 (最後1=34)

↳ 未成工事支出金も → ∴ 403は計画外設計 → 時価が

< 合格率が低いのは 2向の処理を判断したと思いつく >

差 <
↓
余裕

	(401)	(402)	403	(404)
材	(185,000)	(67,650)		
吊	(123,560) 73,250	(45,220) 12,950	63,875	124,250
労外	(100,700) 18,440	(32,150) 9,000	70,500	154,900
外	(50,100) 30,320	(26,040) 55,830	85,900	141,200
経	(30,700) 6,980	(12,520) 18,350	22,070	51,460
人件	(45,610) 14,770	(20,900) 36,940	37,500	53,600
役員			187,500	75,000
重機	11,000	45,000	21,000	43,750

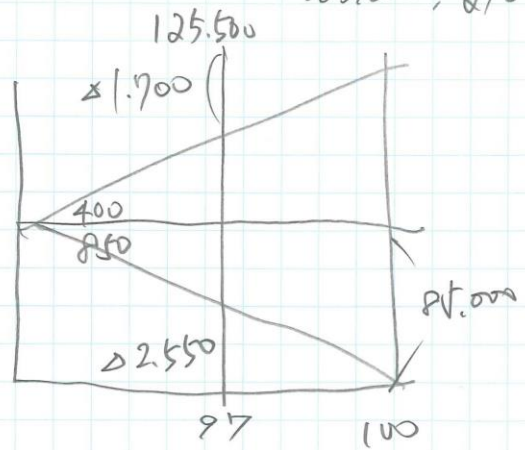
403の未成出資は
403の材の計集中

700 x 810	
400 x 790	500 (円) 250
400 x 820	400 } 250 x 790
	150 x 820
	320,500
< 取扱	45,940
	366,440
(未成)	855,035

⑤ 一般のり (117) $1.0 \times 10\sqrt{2} = 10\sqrt{2}$
 2向のり (I) $1.5 \times 70 = 10\sqrt{2}$
 210

(403) $50 \times 1.5 \times 2.50 = 187,500$
 (404) $20 \times 1.5 \times 2.50 = 75,000$

525,000 ÷ 210 = @ 2,500 / 一般のり117

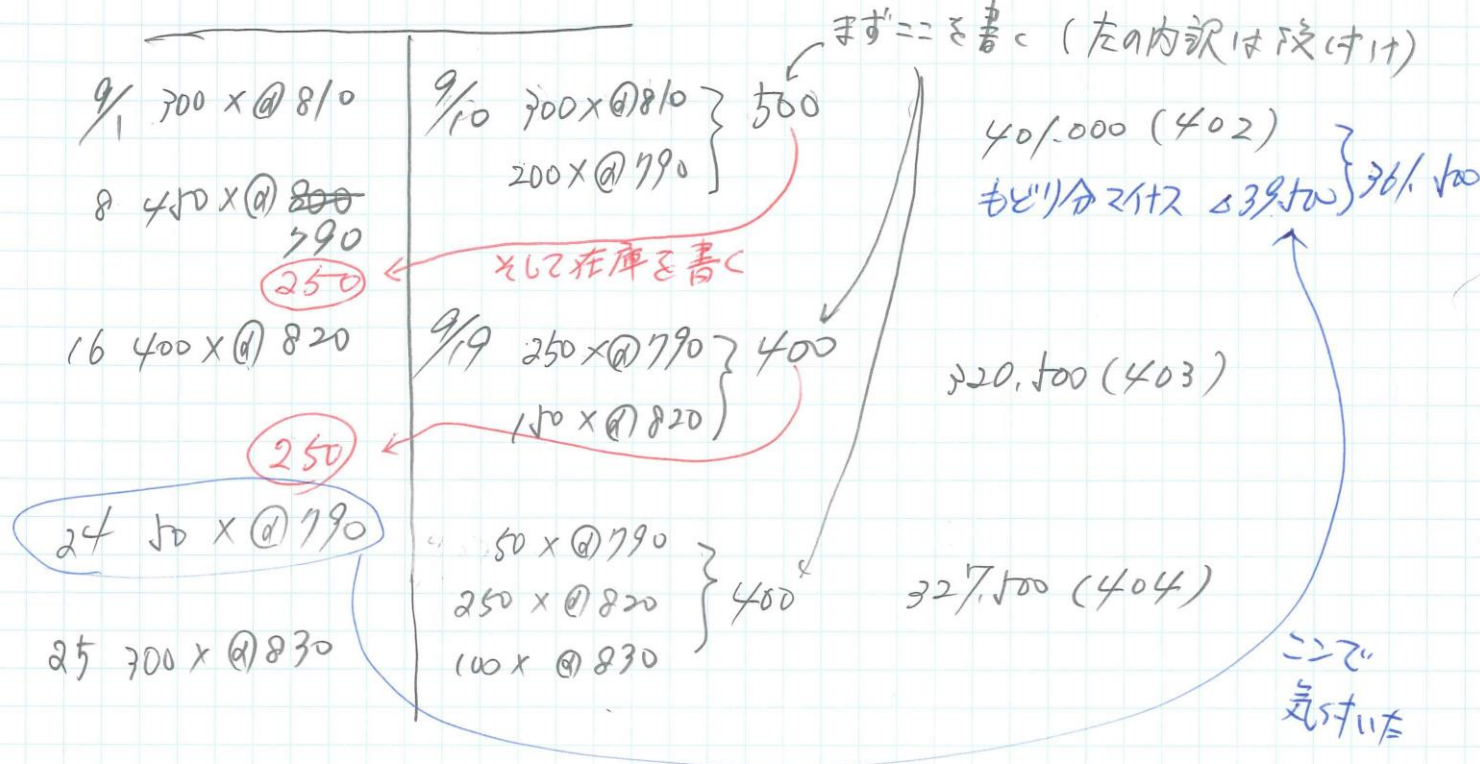


予	820
1.700	880
標	200
2.550	2.750

管	205
7.225	7.430

⑦ 350,875 - (実) 354,100
 = 3,225
 Δ

*18回 X材料をすよとしたら (本誌試験では403のみか?)



*17回 *579

	202	203	204	205
P	(189,000)	(67,500)		
	249,600	448,000	880,000	217,600
Q		110,160	287,860	67,800

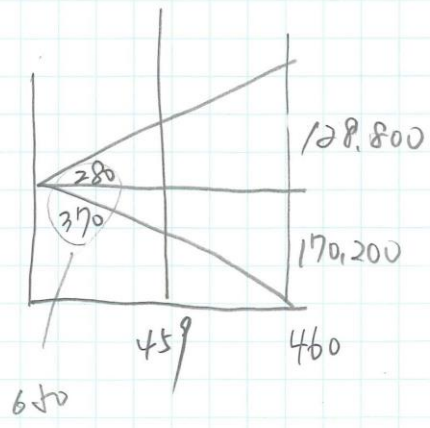
(204後回し)

常	(39,800)	(10,710)		
	145,000	287,500	565,000	150,000
労	(81,200)	(29,050)		
	180,500	269,900	362,000	166,900
外	(58,900)	(31,500)		
	57,280	109,880	299,500	75,000
経	(11,650)	(7,700)		
	68,480	126,580	148,000	61,040
人件	(33,500)	(12,700)		
	78,610	149,900	177,260	57,600
交			239,010	69,390
通	37,700	74,750	146,900	39,000

①	200 x @648	307
③	170 x @648	110,160
⑩	550 x @678	370
⑬	70 x @648	420
⑮	390 x @678	287,860
⑲	100 x @678	305

⑤ 591,100

- ⊖ 110 x 1 = 110
- ⊖ 80 x 1.5 = 120
- ② 2.570 / 一般1人
- ④ 62 x 1.5 x 2.570
- ⑤ 18 x 1.5



Q	
3,200	2,750
=	
520	
P	
600	

建設業経理士1級（原価計算）2問 レジюме

<第19回>

1. 見込生産＝総合原価計算ではないが、後段の表現から総合原価計算を実施していると思われる
5. 試作費は個別原価計算の直接経費として規定されている。

<第18回>

1. 工事現場管理者の給料は経費（うち人件費）となる
2. 操業度との関連で変動費と固定費
3. 例えば外注費
5. 標準か実際か

<第17回>

2. 建設工事原価計算基準の抜粋

本基準における「建設工事原価計算制度」とは、受注した個別工事に適用される
予算原価計算と実際原価計算とが、会計組織上、有機的に結びついて常時継続的に
運営される原価計算をいう。

原価計算基準の原価計算制度の内容と同じ

<第16回>

非原価：非原価項目とは、原価計算制度において、原価に算入しない項目をいい、おおむね次のような項目である。

- (一) 経営目的に関連しない価値の減少 → (営業外費用)
- (二) 異常な状態を原因とする価値の減少, → (特別損失)

要は製造原価と販管費が原価を構成すると考えればいいでしょう

<第15回>

1. 原油を精製する際に重油やガソリンが同時に生産されるが、どちらか一方を意図的に増やしたりすることができたり、一方が不要なものではないことから、これらは連産品と呼ばれる。

2. ライフサイクル

企画設計→建設→運用管理→廃棄

<鹿島建設HPより>

建物は竣工後から解体廃棄されるまでの期間に**建設費のおよそ3～4倍の費用**がかかるといわれています。建物の運営や修繕更新を、計画性をもっていかに行うかによって、発生する費用や建物の寿命は大きく異なります。鹿島は、竣工時に長期修繕計画を作成して提供します。

<第14回>

3. VE（価値工学）

VE (Value Engineering) とは、製品やサービスの「価値」を、それが果たすべき「機能」 1

とそのためにかかる「コスト」との関係で把握し、システム化された手順によって「価値」の向上をはかる手法です。

ジョブプランとは改善上の諸問題を機能概念を主体にして解決する一連のプロセスであり、具体的には VE 活動のガイドラインとアウトプットを示す機能を持つものです。

<日本バリューエンジニアリング協会>

4.5 Sは有名ですね。しっかり押さえておきましょう。

<第 13 回>

特に難しい問題はありません

<第 12 回>

1. この基準では、仮設工事に係る物品の損耗額を材料費としないことにしている
3. 勘違いしないように賃金手当は労務費です

<第 11 回>

2. 受入価格差異
3. 活動基準原価計算

<第 10 回>

1. 製品原価（プロダクトコスト）、期間原価（ピリオドコスト）
2. （基準より）わが国における原価計算は、従来、財務諸表を作成するに当たって真実の原価を正確に算定表示するとともに、価格計算に対して資料を提供することを主たる任務として成立し、発展してきた。
4. 工事契約に関する会計基準より：工事原価総額の定義
5. 品質は次の 2 つの概念に区分される（CMC 日商 1 級レジュメより）

<設計品質：顧客ニーズと製品の設計仕様が適合しているかどうかに焦点をあてた概念

<適合品質：製品の実際の仕様が設計仕様に適合しているかどうかに焦点をあてた概念

品質原価計算においては、適合品質に焦点があてられている

品質原価計算上、品質原価は大きく品質適合コストと品質不適合コストに分類できる。品質適合コストはさらに予防コストと評価コストに分類される。また、品質不適合コストはさらに内部失敗コストと外部失敗コストに分類される。

品質適合コストと品質不適合コストの間には品質適合コストを増加させると品質不適合コストが減少するというトレードオフ関係があるので、品質適合コストと品質不適合コストの合計が最小となる最適品質原価ポイントを実現するように管理していくべきであるとする考え方と品質不適合コストはコストでなく、企業にとっての損失だとする考え方がある。この考え方をとった場合は、損失を減少させることが大事なので、一時的に品質原価の合計が増加したとしても、品質不適合コストが減少する施策を実施し、中長期的に品質原価の合計が下がればよいという考えに結びつく。

建設業経理士 1 級（原価計算）第 1 問対策

論述問題は解答要求を大きく外さなければ字数に関わりなく 50%は確保できます。

中小企業診断士、ビジネス会計検定 1 級、大学院記述試験、建設業経理士 1 級 3 科目合格の経験からほぼ間違いのないと思われます。実際の試験で専門誌から出ている模範解答を書く事はほぼ不可能だと思います。本試験当日の立ち回り方という事であえて作文的な内容で説明させていただきます。問題文の問いかけが難しい場合は、定義中心に解答して下さい。

第 10 回

<問1> 問題文の意味がわかりにくい
こういう時は、原価比例法の意味を中心に書く
さらに他の工事進捗度の計算方法書ければ書く
書く事なければ工事進行基準と工事完成基準でもOK

<問 2>
予定配賦率の計算方法、実際配賦率の計算方法
予定配賦率を使う意味（迅速性）

第 11 回

<問 1> 「施行者の義務を果たすためのすべての原価」
まずは材料費・労務費・外注費・経費
そして計算問題から応用し、労務外注や、販売管理費の中で原価に含むものを書ければ良いでしょう

<問 2 > 予算編成と予算統制の意義
イメージとしては実行予算の事を書けばいいようです

編成で実行予算
統制は差異分析→改善活動

第12回

<問1> 原価計算制度の意義書きにくい、目的羅列でOK
目的は：原価管理・利益管理（表裏一体ですが）・予算管理
原価管理→標準原価計算
利益管理→固定費、変動費
予算管理→実行予算

<問2> 間接費の正常配賦と予定配賦

1 年間イメージ→予定配賦

3 年間イメージ→正常配

賦迅速性も書こう

第13回

<問1> 「信頼性をもって見積もる」の具体的意味（要件書けば良いか）

成果の確実性の要件から書いても良い

実行予算作成

予実対比を随時行い修正できる体制が構築されている事

<問2> 材料副費

付随費用

内部副費→倉庫管理者、原価管理担当者の給与→予定配賦

外部副費→引取費用、倉庫会社→実際配賦

差異分析まで書いても加点か？

第14回

<問1>

予定、正常、理想 この3つくらいでしょうか

1年、3年、ありえない基準

私なら理想から書いて、現実的には無理だから予定・正常と書きます

<問2>

品質原価計算の知識がいります

でも知識なくても書けます

品質→顧客が期待する品質

適合させるためのコスト→品質適合コスト

納入後のクレーム→品質不適合コスト

どっちがダメージ大きいか

こんな観点からの作文で充分でしょう

第 15 回

<問 1>

計算のイメージから行きましょう

直接→簡単・不正確（補助部門間は無視）

階梯式→やや複雑→やや正確（影響度高いものから配賦）

相互配賦法→複雑→正確（補助部門間を考慮）→簡便法、連立方程式法

結果的には大きく変わらないので、直接法採用企業が多い

<問 2>

投資額 100,000

1 年目 CF 50,000

2 年目 CF 40,000

3 年目 CF 30,000

4 年目 CF 20,000

5 年目 CF 20,000

こんな数値を書いて、計算方法を記せばよい

長所は簡単

短所は回収後のCF考慮していない（NPVとの比較）

貨幣の時間価値の事書いても良い

第 16 回

<問 1>

キャパシティ→能力→固定費

アクティビティ→活動→変動費

このようなイメージで作文

損益分岐点の計算要素の観点に触れても良い

<問 2>期間予算編成

これは作文でしょうか

予算作成の意義。実行予算ではない事に留意

ご自身の仕事から考えれば良いと思います

全社予算→部門予算→個人予算

売上予算、原価予算・部門間調整・動機づけ、賞与算定 etc

17 回

<問 1>仮設材料

計算問題の学習からイメージしよう

すくい出し→簿価を原価算入し終了後に評価額を原価から控除

損料計算→予定配賦率で計算

言葉浮かばなかったら、内容だけ書いても良い

<問 2>顧客ライフサイクルコスト

第 2 問で結構出ていた

顧客側、販売側の両観点がある事は書いた方が良い

企画→設計→建設→維持→廃棄

低減のためには企画段階から入った方が良いとされる (一般論)

(任せっぱなしで後はリフォームではコストかかる)

18 回

<問1> 標準原価計算の4つの目的、建設業への適用

私が思いついたのは

原価管理・計算の迅速化・改善活動

建設業は個別性強いので、一般的な製造業でいう標準原価計算は向かない
むしろ実行予算を標準と考え予実対比をする事が大事

<問2> 関連原価の2要件

代替案との比較時に差が出る原価

未来原価である事

比較の観点で埋没原価、過去原価に触れて良い

19 回

<問1> 手待ち時間

手待ち時間の意味→到着遅れ（天候など）

原価性あり（拘束時間）

直接費、間接費

このあたりが説明できれば十分

<問2> 原価改善と原価維持

改善ときたら標準原価計算のイメージでいいでしょう

ともに差異分析をベースとする

改善：引下げイメージ、PDCA（継続的活動）、QCサークル

維持：短期的な微調整イメージ

第24回建設業経理士検定試験

1級原価計算試験問題

注意事項

1. 解答は、解答用紙に指定された解答欄内に記入してください。解答欄外に記入されているものは採点しません。
2. 金額の記入にあたっては、以下のとおりとし、1ますごとに数字を記入してください。

↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
一	千	百	十	一	千	百	十
億	万	万	万	万	の	の	の
の	の	の	の	の	位	位	位
位	位	位	位	位	位	位	位

3. 解答は、指定したワケ内に明瞭に記入してください。判読し難い文字が記入されている場合、その解答欄については採点しません。
4. 消費税については、設問で消費税に関する指示がある場合のみ、これを考慮した解答を作成してください。
5. 解答用紙には、氏名・受験番号シール貼付欄が2カ所あります。2カ所とも、氏名はカタカナで記入し、受験番号は受験票に付いている受験番号シールを貼ってください。なお、受験番号シールがないときは、自筆で受験番号を記入してください。
(氏名・受験番号が正しく表示されていないと、採点できない場合があります。)

〔第1問〕 次の問に解答しなさい。各問とも指定した字数以内で記入すること。 (20点)

問1 原価の作業機能別分類について説明しなさい。(250字以内) $\triangle \rightarrow 2 \rightarrow 10$

問2 組別総合原価計算の意義と計算方法について説明しなさい。(250字以内) $\textcircled{9} \rightarrow 8 \rightarrow 10$

〔第2問〕 次に掲げる各文章と最も関係の深い原価概念を下記の〈用語群〉の中から選び、その記号（ア～シ）を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。 (10点)

- 代替案の比較において用いられる原価の差額 **オ**
- 品質原価計算において、製品の規格に合致しない製品を発見するための原価 **ア**
- 経営者の行う特定の意思決定に関して、現金支出を生じさせる原価 **(カ)**
- 意思決定において無関連な原価 **キ**
- 犠牲にされる経済的資源を、他の代替的用途に振り向けたなら得られるはずの最大の利益額、すなわち最大の逸失利益額で測定した原価 **ア**

〈用語群〉

- | | | | |
|--------|----------|--------|--------|
| ア 機会原価 | イ 過去原価 | ウ 変動原価 | エ 標準原価 |
| オ 差額原価 | カ 現金支出原価 | キ 埋没原価 | ク 評価原価 |
| コ 固定原価 | サ 予防原価 | シ 見積原価 | |

〔第3問〕 次の〈資料〉は、当月の初めに購入した大型クレーンに関するものである。下記の問に解答しなさい。なお、計算の過程で端数が生じた場合は、最終の解答を算出する際に円未満を四捨五入すること。 (14点)

〈資料〉

1. 社内損料計算に関する資料

- 取得価額（基礎価格） 各自計算すること
- 耐用年数 10年 償却費率 100% 減価償却方法 定額法 $\rightarrow \textcircled{変}$
- 修繕・管理費の率 修繕費率 55%（耐用年数期間中） $\rightarrow \textcircled{変}$
管理費率 7%（年間） $\rightarrow \textcircled{7}$
- 使用の標準 年間標準運転時間 1,200時間
年間標準供用日数 200日
- 計算された損料 運転1時間当たり損料 各自計算すること
供用1日当たり損料 ¥14,400

ただし、両損料額の算定にあたって、年当たり減価償却費の半額ずつをそれぞれ組み入れている。

2. 大型クレーンは、当月、A工事現場でのみ使用された。その実績は次のとおりである。

運転時間 75時間 供用日数 16日

3. 当月、大型クレーンに関連して発生した費用は次のとおりである。

修繕・管理費 ¥193,200 減価償却費 月割経費

問1 大型クレーンの取得価額（基礎価格）を求めなさい。 $200,000 + 193,200$

問2 A工事現場への当月配賦額を計算しなさい。

問3 当月の損料差異を計算しなさい。なお、差異が配賦不足の場合は「X」、配賦超過の場合は「Y」を解答用紙の所定の欄に記入すること。 $\textcircled{2} \textcircled{14,400} \times 16 + \textcircled{2,100} \times 75 = 287,900 \rightarrow 45,300$

〔第4問〕 福井建材株式会社は新機械を購入するかどうかを検討している。現時点（第0年度末）において、新機械（取得価額 ¥10,000,000）を購入する場合、4年にわたって経済的な効果が発生すると予測されている。次の〈資料〉に基づいて、下記の問に答えなさい。 (16点)

〈資料〉

1. この投資案から生じる各キャッシュ・フローの見積額

(単位：円)

	第1年度	第2年度	第3年度	第4年度
売上（キャッシュ・インフロー）	8,000,000	7,000,000	8,700,000	9,000,000
費用（キャッシュ・アウトフロー）	5,000,000	4,000,000	6,000,000	5,000,000

- 新機械の耐用年数は4年、残存価額はゼロであり、定額法を用いて減価償却を行うものとする。
- 法人税率は30%である。当社は今後4年間にわたり黒字企業であると仮定する。
- 資本コストは税引後で6%とする。解答にあたり、次の現価係数を用いるものとする。

年	1年	2年	3年	4年
現価係数	0.943	0.890	0.840	0.792

問1 この投資から生じる年々の税引後の正味キャッシュ・フロー（増分現金流入額）を求めなさい。なお、現在価値に割り引かないこと。

問2 時間価値を考慮しない累積的回収期間法（積上方式）によって、この投資案の回収期間を計算しなさい。なお、計算の過程で端数が生じた場合は、年単位で小数点第2位未満を四捨五入すること。本問では、各キャッシュ・フローは年間を通じて平均して発生すると仮定する。

問3 この投資案の正味現在価値を計算しなさい。計算の過程で端数が生じた場合は、円未満を四捨五入すること。なお、正味現在価値がプラスの場合は「A」、マイナスの場合は「B」を解答用紙の所定の欄に記入すること。本問では、各キャッシュ・フローは年度末に一括して発生すると仮定する。

$$[8,000,000 \textcircled{CZF}]$$

$$[5,000,000 \textcircled{COF}]$$

$$[2,500,000]$$

$$500,000$$

$$1,500,000 \textcircled{COF}$$

$$2,850,000$$

(第5問) 下記の<資料>は、福島建設工業株式会社(当会計期間：平成×2年1月1日～平成×2年12月31日)における平成×2年4月の工事原価計算関係資料である。次の問に解答しなさい。月次で発生する原価差異は、そのまま翌月に繰り越す処理をしている。なお、計算の過程で端数が生じた場合は、円未満を四捨五入すること。(40点)

問1 当月の完成工事原価報告書を作成しなさい。ただし、収益の認識については工事完成基準を採用している。

問2 当月末における未成工事支出金の勘定残高を計算しなさい。

問3 次の配賦差異について、当月末の勘定残高を計算しなさい。なお、差異残高については、借方残高の場合は「X」、貸方残高の場合は「Y」を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。

- ① 材料副費配賦差異 ② 重機械部門費予算差異 ③ 重機械部門費操業度差異

<資料>

1. 当月の工事の状況

工事番号	着工	竣工
201	平成×1年9月	平成×2年4月
202	平成×2年3月	平成×2年4月
203	平成×2年4月	月末現在未成

2. 月初における前月繰越金額

(1) 月初未成工事原価の内訳 (単位：円)

工事番号	材料費	労務費	外注費	経費(人件費)	合計
201	199,200	101,900	152,600	89,300 (52,910)	543,000
202	88,500	75,700	84,500	45,340 (28,930)	294,040

(注) ()の数値は、当該費目の内書の金額である。

(2) 配賦差異の残高

材料副費配賦差異 ¥950 (貸方)
重機械部門費予算差異 ¥1,150 (借方) 重機械部門費操業度差異 ¥1,400 (貸方)

3. 当月の材料費に関する資料

(1) 甲材料は工事引当材料である。当月の工事別購入代価は次のとおりである。当月中に残材は発生していない。(単位：円)

工事番号	201	202	203	合計
購入代価	90,000	280,000	150,000	520,000

甲材料の購入に際して、引取運賃等の副費について予定配賦している。当期の予定配賦率は購入代価に対して5%である。また、当月の材料副費実際発生額は¥22,500であった。

(2) 乙材料は汎用の常備材料である。消費単価については先入先出法を適用して計算している。当月の受払いに関する資料は次のとおりである。

日付	摘要	単価	数量
4月1日	前月繰越	@¥4,000	20個
3日	仕入	@¥4,200	80個
11日	202工事で消費		50個
15日	仕入	@¥4,200	40個
19日	戻り		10個
22日	203工事で消費		70個
24日	仕入	@¥4,300	70個
28日	201工事で消費		50個

(注1) 8日に3日仕入分として、¥8,000の値引を受けた。

(注2) 19日の戻りは11日出庫分である。

戻りは出庫の取り消しとして処理する。

(注3) 棚卸減耗は確認されなかった。

4. 当月の労務費に関する資料

当社では、重機械のオペレーターとして月給制の従業員を雇用している。基本給および基本手当については、原則として工事作業に従事した日数によって実際発生額を配賦している。ただし、特定の工事に関することが判明している残業手当は、当該工事原価に算入する。当月の関係資料は次のとおりである。

- (1) 支払賃金(基本給および基本手当 対象期間3月25日～4月24日) ¥380,600
(2) 残業手当(201工事 対象期間4月25日～4月30日) ¥19,500
(3) 前月末未払賃金計上額 ¥75,500
(4) 当月末未払賃金要計上額(残業手当を除く) ¥80,000
(5) 工事従事日数の内訳 (単位：日)

工事番号	201	202	203	合計
従事日数	5	8	12	25

19,500

① 15,404

380,600

75,500

80,000

385,100

5. 当月の外注費に関する資料

当社の外注工事には、重機械の提供を含むもの（一般外注）と労務提供を主体とするもの（労務外注）がある。一般外注工事の当月発生総額は¥207,900であったが、これについては、専門工事業者からの作業時間報告書によって各工事に配賦している。労務外注工事については、発注時から工事別に個別に賦課している。工事別の当月実績は次のとおりである。

工事番号	201	202	203	合計
一般外注工事（時間）	26	24	55	105
労務外注工事（円）	77,700	66,500	110,500	254,700

① / 1,980

（注）労務外注費は、月次の完成工事原価報告書の作成に当たっては、そのまま外注費として計上する。

6. 当月の経費に関する資料

(1) 直接経費の内訳

（単位：円）

工事番号	201	202	203	合計
従業員給料手当	5,450	16,260	16,300	38,010
法定福利費	1,100	7,160	8,980	17,240
労務管理費	5,120	10,800	14,400	30,320
福利厚生費	3,960	11,900	12,880	28,740
通信交通費他	3,560	11,600	13,770	28,930
計	19,190	57,720	66,330	143,240

（注）経費に含まれる人件費の計算において、退職金および退職給付引当金繰入額は考慮しない。

(2) 役員であるT氏は一般管理業務に携わるとともに、施工管理技術者の資格で施工管理業務も兼務している。役員報酬のうち、担当した当該業務に係る分は、従事時間数により工事原価に算入している。また、工事原価と一般管理費の業務との間には等価係数を設定している。関係資料は次のとおりである。

(a) T氏の当月役員報酬額 ¥558,000

(b) 施工管理業務の従事時間

（単位：時間）

工事番号	201	202	203	合計
従事時間	10	10	30	50

① / 3,120

(c) 役員としての一般管理業務は120時間であった。

(d) 業務間の等価係数（業務1時間当たり）は次のとおりである。

施工管理 1.2 一般管理 1.0

→ 施 100R → 150R

(3) 工事に利用する重機械に関する費用（重機械部門費）は、固定予算方式によって予定配賦している。当月の関係資料は次のとおりである。

(a) 固定予算（月間換算）

基準重機械運転時間 180時間 その固定予算額 ¥234,000

① / 1,300

(b) 工事別の使用実績

（単位：時間）

工事番号	201	202	203	合計
従事時間	31	52	99	182

(c) 重機械部門費の当月実際発生額 ¥241,000

(d) 重機械部門費はすべて人件費を含まない経費である。

四捨

201 202 203(7)

材 199,200 8A,500

12 101,900 75,700

外 152,600 84,500

経 89,700 45,340
(52,910) (28,970)

材 90,000 280,000 150,000

別 4,500 14,000 7,500 (26,000)
(定 22,500)

② 2/2,000 162,000 288,000

③ 96,520 123,232 184,848

④ 129,180 114,620 219,400

⑤ 19,180 57,420 66,330

⑥ (10,510) (35,320) (38,160)

⑦ 37,200 37,200 111,600

⑧ 40,300 87,600 128,700 = 236,600 ← 241,000

1,156,378

② 先入先出
 4/1 @4,000x20 出 3車
 4/3 @4,100x80 { @4,000x20
 4/11 202 [@4,000x20
 { @4,100x20 } @4,100x60
 1/5 @4,200x40 { @4,200x40
 2/2 203 [@4,100x60
 { @4,200x10 } @4,200x70
 2/4 @4,300x70 { @4,300x70
 2/8 201 [@4,200x30
 { @4,300x20

★ 材料差異

+ 950
 + 3,500
 + 4,450

★ 重積

✓ 計算差異 07,000
 01,150
 08,150
 ✓ 増付度 + 2,600
 + 1,400
 + 4,000

44,400

建設業経理士25回（原価計算）過去問ゼミ

令和2年9月3日

①過去問ゼミの学習方法

既に24回までの過去問ゼミ確認済んでいる方

→25回のみ確認

今回新たに過去問を実施する方

→10回～19回までの過去問ゼミ（網羅型）確認

24回以降は、個別型です

②過去問題集について

TAC（1,800円）、ネットスクール（2,000円：簡易テキスト付）のいずれかを用意した方がよいと思います。

建設業経理士のサイトでも無料で問題はダウンロードできますので、解き方のみ当社の講座で確認するのであれば（当社の講座は解答は講座内で説明しており、解答として作成はしておりません）特に必要はありません。

TACの最新号では16～25回の問題集なので、15回以前は建設業経理士のサイトからダウンロードして下さい。

③予想論点

過去問の傾向と予想を用意しております。参考にしてください。

④記述問題

模範解答は、簿記上級者・公認会計士合格者などが複数人で3時間以上かけて作成しています。本試験では、「主語+述語+さらに（例えば・具体的には）」作戦でいきましょう。

<第1問>

問1→国土交通省告示に示されている材料費の定義を説明しなさい (250文字)

★本試験での対応→主語+述語

国土交通省告示に示されている材料費の定義は、建設現場内で使用する物品の消費額である。仕訳にたとえてみます。

①建設用材料の購入 (100,000円)

材料貯蔵品 100,000/現金 100,000

②建設現場への払出 (20,000円)

未成工事支出金 20,000/材料貯蔵品 20,000

10点から12点

計算方法には「すくい出し方式」などもある

これで10点満点の5~7点はあると思います

問2→品質コストの分類について説明しなさい

過去問で既出なので、ここは模範解答に近い回答が望まれます。

過去問の確認ができていない場合は、以下のような解答で2点でも3点でも積み上げてください

建設業として、完成した物件に対する品質を保証することは重要であり、その品質保証に関係するコストは以下のようなものがある。

①材料の検品体制にかかるコスト

②現場でのチェックにかかるコスト

③引渡し前のチェックにかかるコスト

④引き渡し後にクレーム対応する場合のコスト

引渡し後のクレームは信用低下も含め目に見えないコストも発生するので、できるだけ内部のチェック体制を強化する必要がある。

これでも5点くらいはあると思われます、

記述式試験において空白が多いよりも、ある程度書けると安心感が生じ、残りの問題に前向きになれます。

建設業経理士試験は発表まで時間があります。各社の解答速報などを見ると、「少しでも書いておけば良かった」となります。ぜひあきらめずに加点目指して頑張ってください

<第2問>

8点確保

- 1、2、4 は正解したい
3 は、長期正常は販売計画にもかかわると思えば対応可能です
5 はイメージしにくいですね。

予定操業度 240 日 工事間接費予算 2,400,000

円予定配賦率@10,000 円

ある製品が 4 日でできた。40,000 円の原価。

実際には 480,000 円の遊休設備があった。

再計算すると $(2,400,000 - 480,000) \div 240 = @8,000$

$8,000 \times 4 = 32,000$ 円

∴アイドルコストの一部が配賦される

∴正しい

<第3問>

できれば満点 14 点 悪くても 10 点

問 1, 2 (5 点)、問 3 (4 点) で計

算 101 を例に説明します

直接材料費 294,000

直接労務費 $1,200 \times 40 + 1,300 \times 60 = 126,000$

製造間接費 $4,800 \times 40 + 4,600 \times 60 = 468,000$

合計 888,000

進捗率 $888,000 \div 1,480,000 = 60\%$

収益 $1,800,000 \times 60\% = 1,080,000$

利益 $1,080,000 - 888,000 = 192,000$

<第4問>

じっくり時間かけよう。できれば満点 16 点

問1

固定製造間接費は埋没原価

∴

自製 $2,900 \times 1,000 = 2,900,000$ 円

購入 $3,000 \times 1,000 = 3,000,000$ 円

検収費 200,000

節約△250,000

→2,950,000

購入は 50,000 円不利

問2

自製 $2,900 \times 1,000 = 2,900,000$ 円

購入 $3,000 \times 1,000 = 3,000,000$ 円

検収費 200,000

製品Q利益 → $3,720,000 - (900 \times 1.3 \times 1,000 + 2,000 \times 1.2 \times 1,000) = 150,000$

利益はコストのマイナス要因

→ $3,200,000 - 150,000 = 3,050,000$

購入は 150,000 円不利

<第5問>

材料Qは本試験では間違え可能性高い

従って、労務費・外注費・経費・人件費・差異分析3つ

4点×7=28点は時間かけてもいいので確実に取ろう

時間があれば材料をじっくり計算し、未成工事支出金を解答する手もある

計算用紙を参考にしてください

★役員の件は質問多いので説明します

役員報酬 600,000 円（一般管理費と工事原価）

工事関連の時間 80 時間

一般管理の時間 120 時間

工事関連は 1.5 倍

∴ 工事 120 : 一般管理 120 → 一般管理費（原価報告書対象外）300,000、原価 300,000

300,000 円を 103（10 時間）、104（50 時間）、105（20 時間）に按分

37,500 円、187,500 円、75,000 円

となります

悪くても 24 点は欲しい

	悪い場合	良い場合
1 問	10	12
2 問	8	8
3 問	10	14
4 問	16	16
5 問	24	28
合計	68	78

25回は合格率 23.1%と少し低め程度なので、第一問は「何か書けている」とそこそこの点数があった、と考えればよいと思います。

建設業経理士（原価計算） 出題論点

	1（通常20点）記述	2（14点）理論選択	3（18点）	4（12点）計算	5（34点）総合問題
1	工事原価計算の目的 工事間接費の工事別配賦計算	語句選択	建設機械の損料計算	材料費・副費計算	完成工事原価報告書
2	予算設定の意義 積算上と報告書上の経費の相違点	正誤	仮設材料の損料計算	材料費計算	完成工事原価報告書
3	個別と総合原価計算の相違点 労務作業の原価計算処理	語句選択	仮設資材の計算	部門費配分表	完成工事原価報告書
4	工事間接費を予定配賦する意義 仮設材料の損耗額配賦の意義と手法	正誤	建設機械の損料計算	総合原価計算	完成工事原価報告書
5	事前原価計算の意義 工事間接費の原価算入手法	正誤	部門別（連立方程式）	労務費会計	完成工事原価報告書
6	特殊原価計算の定義と活用 工事間接費の実際配賦	語句選択	社内損料計算	材料費計算	完成工事原価報告書
7	原価の本質の4要件 固定費負担の平準化	正誤	間接費の差異分析	工程別総合原価計算	完成工事原価報告書
8	工事進行基準と完成基準 原価企画・維持・改④	語句選択	社内損料計算	車両費率算定表	工事原価計算表
9	建設工事の原価計算の特性 仮設資材の工事原価配賦方法	正誤	部門別（連立方程式）	等級別総合原価計算	完成工事原価報告書
10	原価比例法における原価計算の役割 労務費の消費賃率	語句選択	機械センター費の損料計算	車両費率算定表	工事原価計算表
11	工事原価総額の意義 原価計算の目的	語句選択	差額原価収益分析	労務費会計（仕訳）	完成工事原価報告書

12	原価計算制度の意義 工事間接費の配賦計算	語句選択	仮設資材の計算	組別総合原価計算	完成工事原価報告書
13	工事原価総額の信頼性 材料副費の原価算入	語句選択	NPV 累積的回収期間法による回収期間算 定	組別総合原価計算	完成工事原価報告書
14	基準操業度 品質適合コストと不適合コスト	語句選択	建設機械の損料計算	等級別総合原価計算	完成工事原価報告書
15	補助部門の配賦方法 累積的回収期間法	語句選択	差額原価収益分析	工程別総合原価計算	完成工事原価報告書
16	キャパシテコスト・アクティビテコスト 期間予算編成に期待される機能	原価・非原価選択	設備投資の意思決定 タックスシールド・NPV	内製・購入意思決定	完成工事原価報告書
17	仮設材料費の把握方法 顧客ライフサイクルコストの意義と低減	原価・特殊現価選択	差額原価収益分析	部門費配賦(3法)	完成工事原価報告書
18	標準原価計算の目的と建設業へ の適用 関連原価の要件	正誤	労務費会計(仕訳)	差額原価収益分析	完成工事原価報告書
19	手待ち時間の意味と処理方法 原価改④と原価維持	個別・総合選択	建設機械の損料計算	設備投資の意思決定	完成工事原価報告書
20	事前原価計算の種類 機会原価と支出原価	語句選択	工事進行基準から見積額逆算	新規投資の意思決定	完成工事原価報告書
21	特殊現価調査とは 正味現在価値とは	正誤	建設機械の損料計算	内製・購入意思決定	完成工事原価報告書
22	工事間接費の変動予算方式 標準原価計算の厳格度	語句選択	仮設材料 (損料計算とすくい出し方式)	工期短縮の意思決定	完成工事原価報告書
23	経費の4つの把握方法 直接工事費と工事直接費の違い	正誤	建設機械の損料計算	好不況の改④効果計算	完成工事原価報告書
24	原価の作業機能別分類 組別総合原価計算の意義と計算 方法	原価の各種概念	建設機械の損料計算	新規投資の意思決定	完成工事原価報告書

25	国交省の材料費定義 品質コストの分類	正誤（間接費配賦）	工事進行基準の利益計算	内製・購入意思決定	完成工事原価報告書
26	基本予算と実行予算の関係・実行予算の種類 注文獲得費・注文履行費・全般管理費の特質と予算管理方法	語群選択（材料費）	3つの基準操業度における差異分析	取替投資の意思決定	完成工事原価報告書

27予想	予定配賦額の分母・分子 完成工事原価報告書の経費内容		損料計算	差額原価収益分析
	原価企画・維持・改④ A B Cの意義		部門別計算	経済効果算定